

巻頭  
言

## 蝕まれる心



| 会長 山崎 學

令和3年2月3日に開かれた日本オリンピック委員会（JOC）臨時評議員会での「女性蔑視発言？」が国内外から批判を浴びて森喜朗元総理が東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長を辞任した。「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」といった発言が「女性蔑視」に当たると批判を浴びて退場させられてしまった。国際オリンピック委員会の広報担当者は謝罪会見を聞いて「問題は終了した」とコメントしていたが、数日後には手のひら返して不適切な発言に対して責任追及する立場に翻意した。男女平等を謳いあげているオリンピック精神に反するような人物は会長としてふさわしくないと四方八方から矢を放たれてついに万事休すの状態に追い込まれた。

スキージャンプ競技において日本人が金メダルを獲るとルール変更し、板の長さを短くし、ウェアの材質を制限し、水泳選手が金メダルを獲ると泳法に制限を付けるなど、日本はオリンピックの舞台上で泣かされてきた歴史がある。オリンピックの実況放送時間にしても大スポンサーである米国の放送局の顔色をうかがい米国のゴールデンタイムに放送ができるように、競技開始時間が決められるといった、商業主義に汚染されたオリンピックのあり方自体を問題視する意見もある。2020年東京開催の決定にしても日本から多額の資金が選考過程で関係者に渡っていたという報道があり、司直の捜査が進んでいる。

野党女性国会議員の一部は白い上着を着て国会に現れて抗議の意思を表すパフォーマンスを行った。同じ新聞の別の記事では、かねてから米国が指摘してきた習近平指導部によるウイグル族など少数民族に対する弾圧を「ジェノサイド（民族大量虐殺）」「人道に対する罪」と認定した問題に関連して、英国BBC放送が300万人近く収容されているといわれるウイグル自治区の再教育施設で行われている大量の組織的な性暴行や拷問を受けた女性証言を放映したと書かれてあった。またアウンサンスーチーが主導していたミャンマーの民主化路線が国軍のクーデターで崩壊して大規模な抗議活動が続いていると報じられている。アウンサンスーチーは政権奪取後も少数民族山岳民族のロヒンギャ族に対する国軍の蛮行を見過ごし、ヨーロッパ国内ではノーベル平和賞を取り消す署名が続けられている。ミャンマーの国内事情は善悪の単純な図式にならない気がする。

どうやら泥船化した組織委員会会長の席は女性の指定席にしないと国際世論？が収まらないような雲行きである。今喫緊の女性問題は安心な国に身を置いて無責任なマスコミに煽られて能書きを垂れていることでは解決しない。女性問題を訴えるならウイグル、ミャンマーでこの瞬間にも起きている女性の基本的な人権侵害を解決する行動を起こさなければならない。癌と戦い週3回透析をしながら老骨に鞭を打ってオリンピック開催に尽力してきた森元総理を晒しものにして辞任に追い込んだ一連の報道をみて、日本はいつからこんな殺伐とした社会になってしまったのか唾然となるばかりである。どうやら新型コロナウイルス感染症が蝕んでいるのは日本人の身体だけではなくさそうである。